

三年生の先生はしてくれだ」という言葉を聞いたこと
もある。生徒が日々の課題内容を忘れてしまうので、
毎回担任が内容を簡単に記したフリップを自宅に送
ってくれたという。こうしたことを毎回行い続けるこ
とは、いかなるものかという議論も学校現場からは当
然出てくるだろう。対象が多くなれば、全員に対応で
きなくなる可能性もあるので、はじめから行えないと
伝えるべきだという考え方もあるだろう。こうした
「行為」の是非を巡る適切か否かの判断は、実は容易
なことではない。しかし、重要なのは、「なにがし
らの配慮と具体的な支援が必要」とであるという事実に、
学校側がどのような一貫して持続した態度を示すか
である。できる場合もあるだろうしできない場合もある
だろう。組織としての統一見解を十分に説明できるこ
とである。小野田^③の言う、要諦と苦情の境界ある
いは苦情とイヤメンの境界の設定を学校側が示すべ
きである。これが不透明すぎると、親は、今でまたな
ら、なぜこれまでできなかったのか、あるいは、これ
までしてくれたことが、なぜ今回からできないのか、
と当然疑問を抱く。すると、してくれた人は厚顔が、
してくれない人は不信を抱く。学校現場、とくに管

理職は、この境界設定を忘れずに「できる範囲での設
定」を実行をねばならない。

もうひとつ学校現場で議論されやすい「難しい親」
には、子どもの特性と類似した傾向を示す場合がある。
約束の面接日時を忘れてしまう親、毎回の面接内容を
記録し、言葉の端々に疑義を訴える親、こちらの話し
た内容を微妙に、しかし確実に誤解してしまいやすい
親、などである。教員には、単純に親にも同じ障害傾
向があるという決めつけをせず、まずは親子だわ、似
た資質を受け継いでいるのね、と理解してほしい。そ
の上で、教師には「そのような個性的な親に対して、
半歩先を予測して、適度少なく対応する」想像力を
鍛えてほしいと思う。

似た資質があるのなら、面接前日には再度連絡を入
れて確認をしておいて、詳細な記録を送付する親には、
その資料のおかげで振り返りやすくなったと感謝し、
内容にもし誤解が認められたら早くに修正し、誤解さ
れやすい表現をしたことを気づかせてくれたことに感
謝する、という姿勢が求められる。ときには、一方的
なイヤメンを要求する親が、日々の養育のなかで、
思い詰められていることもある。親が要求する無理難

題は、周囲から常に親自身へ求められ、答えられてい
ない親の不快感そのものであるかもしれない。「どう
してそこまで要求してくるの」という怒りの前に「実
はあなたも同じように思い詰められているのね」と理
解することもできるかもしれない。

つまり、「難しい親」とは、わが子どもの関係性が築
きにくく、同時にわが子のよりよき音声を強く希求し
ている親が、学校側と関係を築くことに願っているこ
とを背景にしている。

思いやりとお互い様という気持ち

異質な他者を排除せずと認め合うためには、他者の
思いの本質を推量する想像力を育むことである。相手
の思いに、自らの思いを馳せながらも、決してひた
りとは真ならないという限界も知っておくことである。

理解しにくい、それにくいという関係性を改善する
ためには、思いやりとお互い様という支え合いが求め
られる。

文献

- (1) 多賀幹子「親たちの暴走 日米英のモンスター
ペアレント」朝日新聞、二〇〇八
- (2) 尾木直樹「モンスターペアレント」の背景にあ
るもの「養育と医学」六五六、一一八―一二七頁、
二〇〇八
- (3) 小野田正利「学校に対する無理難題要求の急増
社会問題として」『教育と医学』六五六、一〇八―
一一六頁、二〇〇八
- (4) 横藤真志夫「ていねいな対応と時間的ゆとり」
『教育と医学』六五六、一〇六―一〇七頁、二〇
八

厚生労働科学研究費補助金
障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野)
平成 21 年度 総括研究報告書

平成 22 年 3 月 30 日発行

養育に困難を抱える保護者を支援することのできる
健診評価尺度(保護者自己記入式調査票)の開発に関する研究(2)

研究代表者 田中康雄

連絡先 〒060-0811 北海道札幌市北区北 11 条西 7 丁目

北海道大学大学院教育学研究院

附属子ども発達臨床研究センター

TEL/FAX 011-706-3290

印刷 株式会社アイワード
